

一部の自治体で導入が始まっている「ラーケーション」とは・・・？

平日の商業施設（ショッピングモールや遊園地など）に行った際、「今日って学校があるはずなのに、子どもたちが普通にいる・・・」と思った経験は、誰もが一度はあるのではないのでしょうか。土・日曜日に学校があって、振り替え休日なら分かるけど、明らかに学校を休んでいる時には、もやもやすることがあると思います。インターネットで【学校休んでディズニー（ランド）】などと検索すると賛否の意見が出てきます。

香川県では導入されていませんが、愛知県や茨城県などの一部自治体では、条件を満たせば平日に学校を休める制度の導入が始まっています。その制度が「ラーケーション」です。ラーケーションとは、子どもの学び（ラーニング）と休暇（バケーション）を組み合わせた言葉です。学びの要素があること、保護者の方と一緒に活動すること、休んだ日の学習は自習で補うことなど自治体によっていくつかの条件がありますが、1年間で3～5日間（自治体によって異なる）欠席扱いにならない休暇を取ることができます。

ラーケーションの制度が始まった背景には、2つの要素があるようです。

1つ目は、観光業などのサービス業に従事している保護者は、学校が休みの土・日曜日に休むことが難しく、子どもと一緒に一日を過ごすことが難しいという問題です。土曜日に仕事がある人は約57%、日曜日に仕事がある人は約37%とされていますので、子どもと休日を過ごせない保護者が多数いることが考えられます。大分県別府市や沖縄県座間味村など観光業が盛んな地域でのラーケーション導入は、保護者と子どもと一緒に過ごす機会を作ることを目的としています。

2つ目は、学校ではできない体験の大切さです。世の中学校の勉強だけじゃない、とよく言われますが、文部科学省の調査でも「体験活動やお手伝いなどを多く経験した小学生は、高校生になって自尊心や外向性などの項目の得点が高くなる」ことが明らかになっています。体験活動で真っ先に考えられる旅行は、平日に行ったほうが、人は少ないし料金的にも安く済みますよね。

子どもと接する時間が長いほど、子どもの成長にプラスに働くことが分かっているけど、仕事があって、子どもと過ごせない…といった悩みを持つ家庭は多いと思います。子どもに教育を受けさせる義務がありますが、学校での教育が全てではありません。保護者と子どもと一緒に過ごすこと、学校外での体験活動を行うことも同じく大切です。この機会に、保護者と子どもとの関係を見直してみませんか？

旅人

沖縄県座間味村の事例

沖縄県座間味村は那覇市から西に約40km（フェリーで約90分）沖合にある慶良間諸島の西側を村域とする自治体です。ミシュラン・グリーンガイド二つ星を獲得した「ケラマブルー」と称される美しい海（写真）や、ホエールウォッチングを楽しめる場所です。

座間味村では観光業などの就業者が9割を超え休日など学校休業日が繁忙期と重なることで家族そろって島外への旅行などが難しい現状があります。この状況に鑑み、児童・生徒の学校授業日における休暇取得を推奨し、家族で過ごす時間の確保や遠方への旅行を通して、学校内では経験できない体験によって子どもたちの心身の成長へつなげて頂く取り組みとして、児童・生徒休暇制度「ごまやすみ」が制定されました。



座間味村児童・生徒休暇制度「ごまやすみ」はじめます！【座間味村公式 Web サイト】

<https://www.vill.zamami.okinawa.jp/news/2023/10/post-664.html>（QRコード読込でも見られます）。

